

栃木県景観アドバイザープロフィール

御氏名	三橋 伸夫 (みつはし のぶお)
現職名等	宇都宮大学 名誉教授
アドバイスできること	<p>○市町景観計画策定について ○農村景観について</p> <p>○文化的景観について ○景観農業振興地域について</p>
経歴・活動実績・資格等	<p>(経歴)</p> <p>1981年～1990年 (社) 農村生活総合研究センター研究員 1990年～2003年 宇都宮大学助教授 2003年～2017年 宇都宮大学教授 2017年～ 宇都宮大学名誉教授</p> <p>(活動実績)</p> <p>2004年～2013年 栃木県マロニエ建築景観賞審査委員会委員長 2004年～現在 栃木県景観アドバイザー 2007年～2009年 農林水産省美の田園復興事業地区審査委員会委員 2008年 那須町景観計画検討委員会委員長 2010年～2011年 高根沢町景観計画策定委員会委員長 2011年～2019年 栃木県景観審議会委員 2013年～2017年 宇都宮市景観審議会委員 2019年～2020年 真岡市景観計画策定委員会委員長 2020年～2021年 下野市景観計画策定委員会委員長</p> <p>(資格等)</p> <p>一級建築士 工学博士</p>
ホームページ・著書等	<p>(ホームページアドレス)</p> <p>http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/plan/</p> <p>(著書等)</p> <p>景観づくりむらづくり、ぎょうせい、1993 栃木県農村景観形成ガイドライン、栃木県、1997 美の里づくりガイドライン、農林水産省農村振興局、2004</p>

私の景観への「思い」、「好きな景観」など

地域の景観は、地域に暮らす住民、活動する企業や団体、そしてそれら暮らしや活動を支える行政などによる、長年にわたる積み重ねの成果です。それぞれの暮らしや活動が個別に為されるよりは、全体としてある方向性のもとに為された方が、10年、30年と時間が経過すればするほど地域の景観に差異が生じるのは、当然の帰結です。市町で取り組む景観計画は、言わば、暮らしや活動に関して事前に景観面で地域の共通認識をもち取組事項を定めることです。地域の景観面からの特徴を整理し、その良さを守り後世に伝えるためにどのような行動を今とるべきか、また、どのように住みよい地域を形成していくべきか、これが景観計画の役割であると言えます。

大切なことは、地域に暮らし活動する多くの人たちが、自ら地域の景観を守り育てる主体であることを自覚すること、できるだけ地域の将来像についての共通認識をもつことです。このことは、地域に対する愛着、誇りと密接に関わります。そして、地域の景観の良さがひいては、人々が住まいを選択する、あるいは、企業が活動の場を選択する際の基準のひとつになって、地域の活力を規定していくものと考えられます。

栃木県は、那須や日光などの山並みを北西に擁し、南東に那珂川、鬼怒川、そして、西に渡良瀬川が流れる豊饒の大地です。この土地に宇都宮、足利、栃木をはじめとして歴史ある都市が連なる、自然と人間活動の調和した活力ある地域です。私は特に山並みを背景にした農業景観、農村景観が好きです。この景観にアクセントを加える民家、大谷石蔵、そして長屋門。どこにでもあろうでいて、よく見ると栃木らしさが感じられる大切な景観です。